

2024 年度後期 子ども健康・スポーツコース 実践報告①

名古屋芸術大学 教育学部 講師 細川賢司

はじめに

今年度から子ども健康・スポーツコースは2年目を迎え、2～3年生11名で活動を行ってきた。活動は3年生1人、2年生2～3人のプロジェクトチームを結成し、1チームにつき1つのイベントの企画・運営を行うという形態で進めてきた。前期は、①デジタルバッティングセンター(バンテリンドームナゴヤ)、②にこにこワークショップ(子どもコミュニティセンター)、③留学生別科スポーツ交流会(東キャンパス11号館4階多目的室)の企画について報告した。本稿では後期の前半(9～10月)に実施した企画について報告する。

1. ギネスチャレンジ(学生の夢応援プロジェクト)

日時：2024年9月11日(水) 9:00～16:00

場所：東キャンパス11号館3階体育館、

8号館1階食堂

1.1. 背景

本企画は、以前から本学広報部と連携のあった(株)新東通信から「学生の夢応援プロジェクト」の一環として打診があり、本学教育学部(以下、教育学部と略す)の行事として後援(会場や学生サポートの提供)することにより実現したものである。

1.2. 概要

本企画は、東海圏内の学生と企業が、1つの達成目標(ギネス記録)に向かって協働することにより、学生のスキルアップや企業の認知度向上、および両者のマッチングを目指すという主旨で行われた。ギネス記録の内容は、「8名で3分間にバスケットボールを手渡しで何回パスできるか?」という内容であった(ただし、ボールを落とした場合、記録なし

となる)。今回は100名以上の学生・企業が参加し、合計11チームで記録が競われた。

1.3. 内容

タイムテーブルと実践された内容は以下の通りである。

(1) 大学集合、会場準備(8:30～9:00)

- 表彰用バックパネルの作成や、企業PR会場となる食堂の機材セッティングが行われた。



図1. ギネスチャレンジで使用したバックパネル

(2) 受付開始、会場誘導(9:00～10:00)

- 最寄り駅や駐車場など多方面からの来場に対応するため、複数個所に学生スタッフを配置し誘導・案内を行った。



図2. 受付する学生の様子

(3) ルール説明, 準備運動, チーム練習

(10:00~10:30)

- 主催者からのルール説明があったのち, 参加企業の1つである(株)ウェルシスのインストラクターによって準備運動が行われた. その後, 各チームに分かれて練習が行われた. その際, 三河シーホースのコーチングスタッフからワンポイントアドバイスがあった.



図3. 準備運動の様子

(4) 予選 (10:30~11:30)

- 各チーム3回ずつ行われ, 決勝戦に進む上位3チームのうち, 教育学部生が所属するチームが2つ残った.



図4. 予選の様子

(5) 決勝戦 (11:30~12:00)

- 優勝はホンダロジコムチームであった. 教育学部生が所属するコーミ株式会社チーム, プロメテックスホールディングスグループチームは惜しくも2位, 3位という結果であった.



図5. 決勝戦の様子

(6) 表彰, ギネス記録認定 (12:00~13:00)

- ギネス記録認定員より表彰およびギネス記録認定が行われた. また, 記録認定されなかったチームも認定員との記念撮影等を行った.



図6. 表彰式の様子



図7. 記念撮影の様子

(7) 昼食 (13:00~14:00)

- チームごとに分かれ, 学生と企業が交流しながら昼食をとった.

(8) 企業 PR (14:00~15:30)

- 1社につき10分程度の企業説明、プレゼンテーションが行われた。



図 8. 企業 PR の様子

(9) 交流会 (15:30~16:00)

- 参加した学生が興味のある企業の担当者と各々交流した。

1.4. 総括

本企画は、(株)新東通信と教育学部が協働することにより実現した。教育学部と企業が連携することは異例であり、本学における産学連携企画の成功例を作ることができなのではないかと思う。惜しくも教育学部生はギネス記録に認定されなかったが、集まった100名以上の参加者が1つの達成目標に向かって一致団結し協力できたことは、サポートにあたった子ども健康・スポーツコースとしても大きな収穫であった。またプロバスケットボール関係者(三河シーホース)による指導があったことも、本企画を盛り上げる要因の1つになったと思われる。

今回は他大学の学生に加え、11社の企業(愛知労働局、株式会社アルバイトタイムス、株式会社ウェルシス、株式会社エイチ・アイ・エス、木野瀬印刷株式会社、コーミ株式会社、株式会社CBCラジオ、株式会社城山、株式会社新東通信、プロメテックスホールディングスグループ、ホンダロジコム株式会社)が参加した。そのため、学生のキャリア形成という観点からも、非常に意義のある企画になったと感じる。

今回は、子ども健康・スポーツコースの学生が会場設営や受付、案内を担い、2~3年生が臨機応変に対応したこともあって、概ね混乱なく運営することができた。しかし、会場として東キャンパス体育館を使用したが、100名を超える参加者にとっては少々キャパオーバーだったように思う。そのため、次回は西キャンパス体育館や北名古屋総合体育館等を使用して、ゆとりのある運営を目指したい。

2. あいちワークショップギャザリング

日時:2024年9月13日(金)事前準備,9月14日(土)

企画当日

場所: 椋山女学園大学星が丘キャンパス学生会館

2.1. 背景

本企画は、前期のデジタルバッティングドーム企画にて協働した芸術学部教員の紹介により参加が実現した。あいちワークショップギャザリングは椋山女学園大学の教員が中心となり、2014年から毎年数回開催されている保育・教育系のワークショップイベントである。多様な大学生、企業から趣向を凝らした遊びやその他の催しが出展されている。子ども健康・スポーツコースからは前期に実施したデジタルバッティングドームを出展した。また、本企画では設営の簡易化に挑戦した。

2.2. 内容

2.2.1. 事前準備

イベント前日(9月13日)は、事前準備としてデジタルバッティングドームの設営・シミュレーションを行った。出展場所は学生会館2階にある体育館で、遮光カーテンを使って太陽光を遮ることができた。そのため、前期の出展時のように暗幕を張る必要が少なく、図9のように機材を簡易化して設置した。結果として、アルミフレームの組み立てから機器(プロジェクター、ソフト)の調整までを1時間ほどで終わることができた。

事前準備の完了後は、他大学の学生にデジタルバ

ッティングドームを体験してもらったり,他の参加者が出展しているワークショップを体験させてもらったりした. イベント当日は来場者の対応に追われるため,余裕を持ってワークショップを体験することができ,また他大学の参加者と交流を深めることができた貴重な時間であった.



図9. デジタルバッティングドームのシミュレーション
および他大学との交流の様子①



図10. デジタルバッティングドームのシミュレーション
および他大学との交流の様子②



図11. 他の出展者のワークショップ体験①:
シンセサイザーを使ったワークショップ



図12. 他の出展者のワークショップ体験②:
モーションキャプチャを使ったワークショップ



図13. 他の出展者のワークショップ体験③:
逆さ文字神経衰弱のワークショップ



図14. 他の出展者のワークショップ体験④:
ビーズアートのワークショップ

2.2.2. 企画当日

(1) ワークショップの運営

当日は10:00~12:00が午前の部,1時間の休憩をはさんで13:00~16:00が午後の部であった.前期の出展時と違い,学生スタッフは2名のみであったが,午前の部では来場者が少なく,間欠的に体験が行われた程度であった.しかし,午後の部では

新規の体験者とりピートの体験者によって、絶え間なく稼働しており、終了まで休憩する間もなかったほどであった。今回も延べ200名以上の子どもたちとその保護者に体験してもらうことができ、前回同様概ね満足いく内容であったと感じる。

また、設営を簡易化したことにより、投影されたデザインが見えづらくなることなどが懸念されたが、大きく問題となった点はなく、順調に運営することができた。一方で、前回同様子どものスイングは高い確率で捕捉できたものの、大人のスイングの計測が課題として残った。



図 15. デジタルバッティングドーム体験の様子①



図 16. デジタルバッティングドーム体験の様子②

(2) 事後交流会

午後の部終了後は撤収作業を行い、17:00~18:00の間で事後交流会が開催された。交流会では、各出展者が遊びやその他の催しを振り返り、今後の展望について答えた。子ども健康・スポーツコースからも、今回は設営の簡易化に挑戦したこと、今後は変化球の導入や他のスポーツへの応用に挑戦したいといった内容が共有された。



図 17. 交流会後の記念撮影

2.3. 総括

今回は前期の出展時に比べ、より少ない人数、および簡易化された設営で実施したが、問題なく運営することができたのは収穫であった。次回は10月26~27日に中部国際空港で行われる「ちびっこチャレンジカップ」に出展予定である。現在挙がっている課題については、今後学生とともに改善に取り組みたい。

3. 留学生別科異文化交流授業

日時：2024年10月10日(木) 10:40~12:10

場所：名古屋芸術大学東キャンパス 5号館 503教室

3.1. 背景

前期は子ども健康・スポーツコースが主体となってスポーツ交流会を企画し、7月11日に留学生別科の学生(2年生)とともに実践した。その翌週7月18日には、スポーツ交流会の振り返りと事後交流会を兼ねた合同授業を行った。今回は、教育学部と留学生別科の3回目の交流授業であり、ネパール最大の祭事である「ダサイン」に招待される形で参加した。

3.2. 内容

(1) ネパール文化の紹介(プレゼンテーション)

まず初めに、留学生別科の2年生がネパールの文化やダサインの宗教的・歴史的背景について発表した。ネパールでは「ビクラム暦」が使用されており、

西暦とは約 57 年の差があることに、教育学部生は驚いていた様子であった。



図 18. プレゼンテーションの様子

(2) ネパール国歌斉唱

次に、留学生別科の1年生が中心となって、ネパール国歌の斉唱を行った。自国の国歌を堂々と歌い上げる姿に、教育学部生も感動した様子であった。



図 19. ネパール国歌斉唱の様子

(3) 伝承遊び披露① チュンギー

ここからは両国の伝承遊びを体験する時間となった。ネパールの伝承遊びであるチュンギーは、サッカーのリフティングのような遊びで、蹴鞠のように複数で行うのではなく、基本的に個人で行う。今回使用した球は輪ゴムをつなげて作られており、留学生別科生たちは足部の内側や外側を使って巧みにコントロールする様子が見られた。一方、教育学部生たちはサッカー経験のある者でも苦戦する様子が見られた。



図 20. チュンギーで使用する用具



図 21. チュンギーを実践する様子

(4) 伝承遊び披露② けん玉

教育学部子ども支援コースの学生がけん玉を紹介した。けん玉の実践中には、教育学部生が留学生別科生に見本を見せたり、共に楽しむ様子が見られた。



図 22. けん玉の実践の仕方を説明する様子



図 23. けん玉を実践する様子

(5) 民族衣装（サリー）試着

ネパールの伝統的な民族衣装であるサリーを、教育学部生が試着するという体験が行われた。サリーに使われる一枚布は長いもので 5m 程度あり、留学生別科の女学生の手伝いによって 30 分ほどで試着を終えることができた。試着後、教育学部生や留学生別科生との記念撮影が行われた。



図 24. サリーの試着



図 25. サリーを着用しての記念撮影の様子

(6) ティカの塗布

ネパールではダサインの際、ティカという赤い液状の装飾を額に塗布する習慣がある。これは、米とヨーグルトに塗料を混ぜて作られるものであり、宗教的な意味合いを持つ。今回は、上記の記念撮影と並行して、留学生別科教員から学生へティカが塗布された。

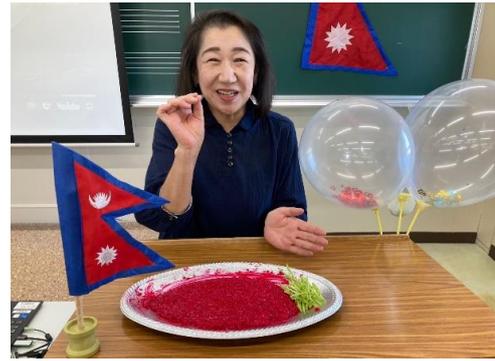


図 26. ダサインで実際に用いられたティカ



図 27. ティカを塗布する様子

(7) 祝祭用料理の試食

ダサインで食べられる料理（ダサインプレート）を参加者全員で試食した。メニューは①アチャル（南アジアにおける漬物）、②チャナ（ひよこ豆を煮て味付けしたもの）、③ダルモド（揚げた豆やニンジンなどの野菜をあえたもの）、④プラウン（エビを使った料理のこと、今回はえびせんべい）、⑤パンパル（ネパールのせんべい）、⑥タンドリーチキン、⑦ブザ（ネパールのポン菓子）などであり、留学生別科の2年生が中心となって人数分の準備が行われた。味付けは日本人にとってやや辛めであったが、普段食べる機会が少ない料理であったため新鮮であった。



図 28. ダサインプレートを準備する様子



図 29. ダサインプレートを試食する様子

3.3. 総括

前期に引き続き教育学部（子ども健康・スポーツコース、幼児教育・保育コース）としては3回目の交流の機会となった。今回は留学生別科がゲスト、教育学部がゲストという位置づけとなり、留学生別科生たちが多くの時間をかけて準備をしてくれたため、素晴らしい催しとなった。ここで、参加した教育学部の感想を一部記載する。

表 1. ダサインに参加した学生の感想

子ども健康・ スポーツコース	ネパールの文化や食事、遊びなどを知ることができて、他の大学にはない、貴重な時間を過ごすことができました。また、交流できる機会があれば嬉しいです。
	現地で実際に使われている衣装や食事でおもてなしをしてきて、自分たちがネパールに来たような気分を楽しめました。ネパールの文化を温かい雰囲気の中で楽しみながら学べて、貴重な体験になりました。
	ネパールの方々を今回たくさん知ることができました。お祝いの時に女性が着る洋服の布がすごく長くてそして色や柄も可愛かったです。ネパールと日本はカレンダーで57年も違いがあることを知り、驚きました。
	現地での料理や衣装、遊びを実際に体験することができてとても楽しい時間になりました。また機会があればネパールについて沢山教えてください！
	ダサインに参加して、ネパールの文化について詳しく知ることができました。今回がなければ、ダサインのことについて知る機会は無かったと思います。貴重な体験をありがとうございました。ネパールのおもちゃも初めて体験して、難しくて楽しかったです。日本のけん玉も楽しんでいただけていて、嬉しい気持ちになりました。また、このような機会がありましたら参加したいです。
	普段食べられないネパール料理を振る舞ってもらったり異国の文化や歴史を知れて面白かったです。
	ダサインという行事があることと日本と57年も差があることを初めて知りとても面白く感じた。プレゼンも分かりやすく、動画などもあったので楽しみながら聞くことが出来た。初めて民族衣装も着れて良い経験になりました。
子ども支援コース	初めてネパールの文化に触れて、伝統衣装や郷土料理を食べて文化がこんなにも違うのは面白いなと思いました。伝統衣装は色々な色や柄、着方があってそれぞれの個性を出せるなと感じました。郷土料理は少し辛かったけど、頑張って作ってくれたのが嬉しかったです。
	ネパールのお祭りについて紹介してもらって、料理も食べて、日本との違いがたくさんあることを実感しました。しかし、ネパールのあそび、日本のあそびをともに経験したときに、漠然と私たちは「同じ」なんだと感じました。また、話し方や盛り上がり方から穏やかさが伝わってきて、ネパールについて良い印象を持ちました。とても楽しかったです。カレンダーの比較で、日本が2024年の今、ネパールでは2081年ということに驚きました。どうして違うのか疑問に思いました。暦の関係なのか、宗教は関係するのか、他にどこの国もネパールと同じものをつかっているのか、気になりました。
	初めて異国の方々と一緒に授業を受けてみて、ネパールの方々には積極的な方が多いという印象を受けました。日本は、発表をする際に緊張をしたり、手を上げて自分の意見を言うことに抵抗を感じている人も多いようですが、ネパールの方々には堂々と教室の前で発表をしたり、たくさん発言をしているなと思いました。
	実際に一緒にチュンギーやけん玉をしてみて、優しく話しかけてくれてあまり国の壁は関係ないということに気づきました。今までは国が違うということだけで、少し話しかけづらい印象を持ってしまっていたのですが、今回の交流を通して、他国の方と交流をする楽しさに気づくことができました。思い出に残る素敵な経験になりました。
	とてもフレンドリーだと思った。常に辛いものを食べているけど、日本の辛いものも好きなのかなと疑問に思った。
	ネパールの文化や遊びを知ることができて良かったと思います。おでこに載せている赤いものが米だということを知った。
	みんな明るい性格のようで、雰囲気が良くっていい体験になった。日本とネパールとの宗教や食事などの文化の違いを直に感じた。
	日本の遊びについてすごく真剣に取り組んでくれてすごく楽しそうだったネパールの食べ物も思った以上に辛くて、普通に食べられているのがすごいなと思いました。
	まず、教室に入った瞬間、とても明るくて賑やかな雰囲気を感しました。パワーポイントを使ってダサインについて分かりやすく話していただき、行事をとても大切にしているのだということを知ることができました。ネパールの遊びや日本のけん玉での遊びを通して、コミュニケーションを取ることができ、生まれや育ちは違っても似た文化を持っているのだと思いました。
	日本語はいつ頃覚え始めたのか知りたいなと思いました。ダサインの説明をしてくださった時に漢字も読めていたり、けん玉で遊んでいる時に「教えてください」と話しかけてくださったり、日本語がとても上手だったので疑問に感じました。

今年度、「身近な異文化に触れる」ことをテーマとして、同じアジア出身の学生と触れ合い、生活や習慣の違いに気づき、また身体と言語を通して交流

することに挑戦した。特に、子ども支援コースはこれが初めての交流となったため、気づきと学びの多い体験であったと思われる。次年度は、より学生が

主体となって、身近な異文化とのさらに深い交流を続けていきたい。

おわりに

9 月前半にギネスチャレンジとあいちワークショップギャザリングという 2 つの行事があったが、夏季休暇中にも関わらず学生たちの積極的な協力により、どちらも順調に運営することができた。学内だけでなく学外で活動する機会が増え、学生たちは適度な緊張感を持ちつつではあるが、多様な交流を楽しむ様子も見られるようになってきた。後期はあと 4 つの行事（ちびっこチャレンジカップ、スポーツであ〜そぼ！、にこにこワークショップ、ブラインドラグビー体験イベント）が残っている。3 年生のリーダーシップと 2 年生のフォロワーシップを引き出しつつ、学生のスキルアップにつながる機会にしたい。

謝辞

デジタルバッティングドームの製作・展示にご協力いただきました芸術学部先端メディア表現コース加藤良将先生、大久保拓弥先生、教育学部子ども ICT コースの真弓先生、異文化交流授業を企画・運営いただきました留学生別科の牧野恵美先生、教育学部幼児教育・保育コースの谷口征子先生にこの場をお借りして感謝の意を表します。